

連載

ああ、猪猟泣き笑い

その15年を振り返り

川崎市

田宮 治

色んなことがありました…



10 ある猟場で起きた事件(2)

●トラブルの予感

軽トラックが山の上から近づいて来て私の前で止まった。運転席の窓から顔を出した若い獵人。怒ったような顔で「犬を探しているのか?」と言う。「そうです」と私が答えると、彼はさらに無然とした表情で車の窓から肘を突き出し、「この道の奥に紀州犬の老いほれを繋いできた」と言う。「紀州犬ですか? 毛色は?」と訊くと、「茶色だよ、茶色。無線の付いた老いほれ犬だ」と、大声で高圧的に言い放った。

「富士雄号」だ…と確信した私は、「その犬は私の犬だと思いません。ありがとうございます」と、まずは礼を言い、次に「何か悪さをしましたか?」と尋ねた。すると、「お前なあ、獵犬をこんな所で放すなよ」と語気を荒げ、怒鳴りつけてきた。私はわが耳を疑い、相手を見やった。男は、今にも車から飛び出して来そうな形相で、「獵犬を放すな」と言っているんだ。わかったか?」と言う。

「獵犬を放すな?…」私はその意味がわからず、「どうしてですか?」と訊き返した。「お前なあ、この辺りの山では、至る所にイノ

シシを飼っているんだ。そのイノシシに犬が飛び込んだらどうするつもりだ?」と、さらに凄む。やつと事情が飲み込めた。この若い獵人は、あのグループのメンバーなのだ。そうか、今度はこの手で来たのか?と思った。

「イノシシを飼っている所はどこですか?」と訊いてみた。答えは「至る所だよ」だった。私は我慢の限界に来ていたが、できるだけ冷静に反論した。

「私は、10年以上この地区に出猟しているけど、この近くでイノシシを飼っているのはSRRだけだよ。私の犬は、あそこまでは行かないし、これまでも一度だって悪さはしていない。仮にそうした事態になったら、責任の全ては私にあり、私が責任をとる。ここで、あなたにとにかく命令される筋合いはない」と切り返した。

男は、「とにかく、迷惑なんだよ。獵犬は放すな!!」と繰り返す。このままでは埒(らち)が明かない。仕方なく、「犬はどこに繋いでいるのですか? 私の犬ならお礼もしなければなりません。あなたの名前と連絡先を教えてください」と言うと、彼は名前も連絡先も教えず、「とにかく、絶対に放すな。

わかったな!! 犬はこの道の奥に居る。行けばわかる」と言い残し、軽トラをヒステリックに急発進させ、下って行った。

このS地区に出猟を決めたときに懸念していたことが起きてしまったようだ。例のグループとの間で、抜き差しならないことが起こる予感がしてきた。ちょうどそのとき、「富士雄号」達を探して来ていたKさんと猟友が車で登って来た。急発進する軽トラを見て不審に思ったようだ。2人は、「どうしました?」と車を降りて来た。

私は、これまでの経緯「サクラ号」がここに居たこと、「富士雄号」は奥に居ることを軽トラの若者から聞いたこと、などを簡単に説明した。そして、自分は奥に行ってみるので、Kさん達は朝の放犬場所に行き、忘れ物がないか調べて、そのまま待っていてほしいとお願した。2人は、私の言葉に何の疑いも持たず(?)に、放犬場所に戻って行った。

さて、どうしたものか…。私は、これまでのことが脳裏を駆け巡りはらわたが煮えくり返る思いだった。それでも心を鎮め、いつものめめ事の中で知っていた「川の上の家」を目指した。どれほど走っ

たろうか、目的の家に近づくにつれ「富士雄号」の無線が入り始めた。こんなに遠く、無線も届かない所まで連れて来られたのだ。先ほどの若者は、グループの伝達者だったのだ。

怒りと、やりきれぬ思いで現場に駆けつけると、ガードレールに繋がれた哀れな「富士雄号」が目飛び込んだ。そして、そこには例のグループの面々が居た。「富士雄号」は、私の車を見ただけで喜び、前足を立てて吠えている。落ち着くんだ。まずは礼を尽くせ…。逸る気持ちを抑え、大きく深く呼吸をして車から降りた。

● 猟人の心あるならば：

「お手数をおかけしました。ありがとうございました」。私は深々と頭を下げた。「富士雄号」は、全身で喜びを表し、私に寄りつこうとする。私は、「何をしたんだ、お前は…。よしよし」と、「富士雄号」の体を撫でながら車に乗せた。そして、「皆さん、どうもありがとうございました」と、もう一度深く一礼して車に戻ろうとした。「おい! こら、待て!!」と誰かが怒鳴る声があった。振り向くと、あつと言う間に十数人の猟人に取

り囲まれ、今にも一斉にとびかかって来そうな雰囲気になった。「何ですか?」と言うと、1人が「お前よお、少しは遠慮しろよ!!」と大声で威圧してきた。「どういうことですか?」私が問い返すと、

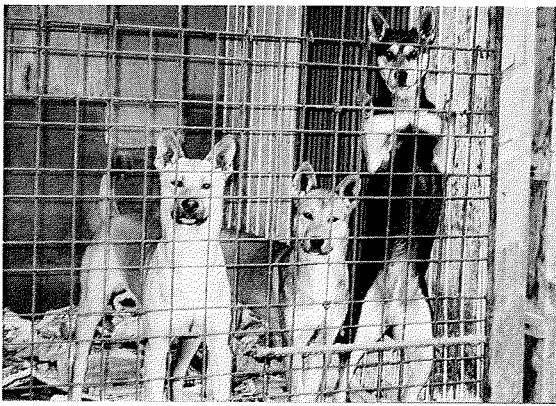
彼は「入山するときには、S支部に連絡しろと言っているのがわからないのか?」と怒鳴り散らす。私が思っていたとおり、このグループの目的は、外部から入猟する者は力づくで追い出すことなのだ。そのための手段として、まず猟犬を捕まえて連れ帰り、人質ならぬ犬質にする。そして、伝達者まで送って外部から来た狩猟者呼び寄せ、数の力で威嚇して追い払う…といった目論みに思えた。現場を見渡すと、広くなった道路の右側に6、7台の車が並んで止められており、そこから左上方に向かって小道があり、そこにこのグループが集まるリーダーの家(川の上の家)がある。

前方下に小川が流れ、そこには小橋が架かっけていて、イノシシの解体場所になっているが、これまでに何回かトラブルのあった場所でもある。

車が止められている場所は道路なのだが、並べられた車と人が奥

への通行を完全に遮っている。私は思った。今回のことは、私の車(前の車と入れ替えてある)と、これまで見たことのない「富士雄号」がいたので、新しい狩場荒らし…と思ったようだ。

「何が遠慮しろ、ですか? この狩場は誰が入っても問題のない場所のはずですよ。これでも、私なりに遠慮しているつもりですよ。この山に入ったのは、今猟期は今日が初めてですよ」と私が言うと、その言葉を遮るように、「とにかく



(左)は長野県白上氏、(中)は千葉県白石氏。(右)は筆者が気に入っている「ナオ号」(父犬「富士雄号」×母犬「チヒロ号」)

迷惑なんだよ。獵犬を放すな!!」
と後ろのほうで誰かが怒鳴った。

グループの真意はわかっていた。
わかっているうえで、耐えなければ……と抑えていた気持ちだったが、
ここまで卑劣な行動と、たった1
人を怒鳴りつけ威圧する彼らの言
葉に、とうとう私もキレた。

「そこまで言うのか、お前ら。
責任者を出せ!!」と怒鳴り返した。
すると、一番前で先ほどから言
たい放題であった1人が、「俺が
責任者だよ」と肩をいからせ、ツ
カツカと前に出て来た。その形相
たるや、今にも掴みかからんばか
りであった。これは、売られたケ
ンカだ。相手が何人居ようが、な
められてたまるか!

「こんなことして、恥ずかし
くないのか? こんな理不尽が通
るとでも思っているのか? これ
以上、俺にどうしろと言うんだ?
犬を捕まえてもらったと思っ
たら、皆にこのハゲ頭を下げて、
きちんと礼を言って帰ろうとし
たんだ。ほかに何かよこせ、と
でも言うのか?」

グループの誰かが「俺達の獵
場に入るなよ。お前の犬がマチ
に入ってきて、傍で寝転んで動
かずに、迷惑だから捕まえた
んだ。それが

なぜ悪い?」と息巻く。

「それを言うなら、お前達の
犬だつて、しょっちゅう俺の
狩っている所に来てい
るじゃあないか。おまけに、
俺の獲ったイノシシを平
気で犬に咬みつかせ、
挙げ句は、このイノシシ
は俺達が追っていたヤツ
だ、とクレームまでつけ
たじゃないか」

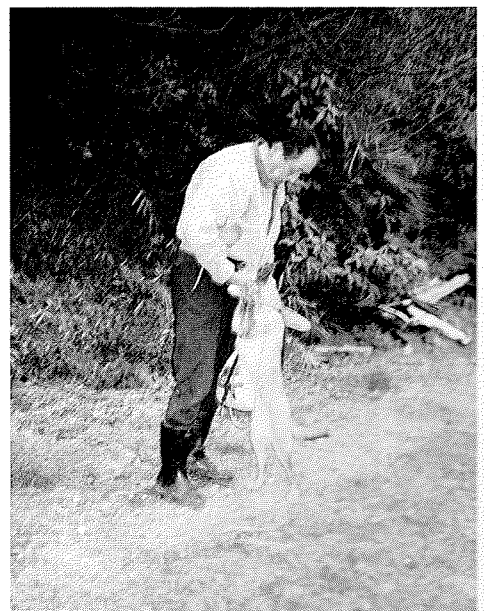
怒りは、まだ収まらない。
「いい機会だから言ってお
くけど、人の追ったイノシ
シにマチを張るな。お前
達は、私が追っていたイ
ノシシまで平気で撃ち
獲り、イノシシから離
れない犬まで連れて行
ってしまふじゃないか。
これまでも色々言いが
かりをつけ、そのた
びに話し合つて、俺に
詫言いた人もいない
はずだ。覚えがある
人、ここに出て来いよ!」
と云つても誰も出て
来なかつた。そればかり
か、「それはよそのグル
ープだろう」と聞き
直る始末だ。

これまで私が先に入
山し、「さあ放犬」とい
うときに、このグル
ープが現れ、「ここは
俺達の山だから、ど
ける」と言われ、文
句一つ言わずに譲つて
きた。それが10年
以上も続いていたの
だ。昨年(16年度
獵期)も、このグル
ープの1人がやつて
来て「どける」と言

れた。私が「今日
はダメです」
と答えると、「今日
は20人以上来
るので、何とか
……」と頼まれ
譲つた。

そのときの人
には、この山は
誰の山でもない
こと、人が追つ
たイノシシを獲
らないこと、他
の獵人の犬を捕
まえないこと、私
は妻や孫を連れ
て楽しみに来て
いること、今日
がダメなら、1泊
して明日に賭け
なければなら
ないこと……
などを静かに
話した。彼は、
私の話を「わか
りました」と真
摯に聞いてくれ
た。

そして、「あの峰
から奥はあな
たが、前のほう
は私達がやら
せてもらいま
す」と申し出
てくれた。この
ときは、私も
本当に嬉しか
つた。獵人たる
者、かくある
べきだと思つ
たものだ。そ
して、「私の犬
が追つたイノ
シシがグル
ープの獵場
に入ったとき
は、遠慮なく
撃ち獲つてく
ださい。ただ、
くれぐれも犬
だけは撃た
ないように願
います」と言
うと、彼は「あ
り



毎日続く子犬の訓練

がとうございま
す」と笑顔で
帰つた。

長年の懸案だ
ったS地区の
グループと和
解できた……
と、そのとき
は本当にそう
思った。「この
ことも含め、
これからは共
獵できるよ
うに皆に話
しておきま
す」と笑顔
で語つたあ
の獵人を信
じたのだが
……。

私は、「覚え
のある人、出
て来いよ!」
と二度三度、
大声で言つ
たが、誰も
答える者は
いなかった。
「来るな」と
か「獵犬を
放すな、迷
惑だ」と言
われても、許
可を得て入
った獵場であ
り、獵犬を
放さずに獵
などできは
しない。

私は、本心
からこう言
つた。「人
の犬を捕ま
えるな! 何
が老いば

れ犬だ？ お前達の目は節穴か？
これは天下の名犬富士雄号だ。こ
の犬は、寝転んで帰ろうとしない
とか、俺から遠く離れてしまうよ
うなボロ犬じゃあない。昨日だっ
て100kg以上の大猪に馬乗りに
なって咬み止め、ちゃんと撃ち獲
らせてくれたんだ。この犬がイノ
シシを狩り込んでいるときに、な
ぜ捕まえるんだ？ おまけに、こ
んな無線の届かない所まで連れて
来て……」。

「お前達も猟人なら、無線に入
らない犬を心配する主人の気持ち
はわかるだろう。俺が無線を付け
て放すからには、例えば犬がイノシ
シに殺されようが、そこが谷底で
あろうが、必ず探して連れて帰る
自信があるんだ。真の猟人なら、
富士雄号をひと目見れば、その能
力はわかるはずだ」

● 猟道をわかってほしい

この後、私は自分が田宮治であ
り、「狩猟界」誌において「富士雄
号」を紹介しており、住所も公表

している。決して逃げも隠れもし
ないことを伝えた。ただ獲物を獲
ることだけに夢中になり、「邪魔
だ、迷惑だ」と言つて犬を縛り上
げ、部外者(同じ猟人ではないか)
を寄せ付けないやり方は絶対に許
せないと思った。

「おい、責任者よ。あんたもこ
れだけ大きなグループの責任者な
ら、猟道徳を全員に教えたらどう
なんだ。G県猟友会S支部に連絡
して入山許可を取れ、と言うから
には、あんたもS支部の何か(役
職)だろうが、こんなことを10年
以上も続けていれば、大変な事件
だぞ。いずれはつきりさせるが、
あんたの名前を聞かせてくれ」と
申し出たが、「自分が責任者だ」
と言いつつ人物は、私の問いに
は答えなかった。

さらに、これまで私ともめるた
びに「これからは仲良くやりまし
よう」と言つていた人物も出て来
てはくれなかった。気まずい沈黙
が流れた。

そのとき、右側に止めてある一
番前の車の運転席で、一部始終を
見ていた人物が車から飛び降り、
私と責任者の間に割つて入り、「田
宮さん、私はKという者です。も
め事はやめてください」と言う。

私はいくぶん冷静になり、「Kさ
ん、お聞きのとおりです。私は好
んで争いごとなど起こしてはいま
せん。問題は、あなたの方のグル
ープにあります」と言つた。

K氏は「わかつています。田宮
さんのことも富士雄号のこともよ
く知っています。毎月、『狩猟界』
で田宮さんの立派な記事も読ませ
てもらっています。どうか、ここ
は穏便に……」と言う。さらに、「私
は東京の猟友会でグループを持ち、
その代表をしています。立川のS
銃砲店で聞いてもらえばわかりま
す」と続けた。

私は「それならば、何時間もか
けて猟場を探して来る私の気持ち
もわかるでしょう。私も立川のそ
の銃砲店には出入りしています。
あなたも人に教える立場の方なら、
この人達に猟の常識を教えてあげ
てください」と話した。

そして、私が「狩猟界」誌に書
いていることは、決して立派なこ
とではなく、多くの失敗を重ねた
体験の中から、私なりの狩猟方法
や、猟の楽しさを後に続く若い人
に伝えていけたらと思つて綴つて
いる……ことも付け加えた。

そうこう話しているうちに、「一
番前の車、前に出て！」と大声が

かかった。「それでは、東京でま
た……」と言いつつ、K氏は一番車
に乗り込み帰つて行つた。いつの
間にか、グループの責任者も、私
を囲んでいた人達も車に分乗し、
そそくさと立ち去ろうとしている。
慌てた私の「責任者、名前は？」
の問いかけにも答えず、「誰か、
前に私と話した人は？」には、「そ
んなヤツはいない。よそのグル
ープだ!!」の捨て台詞を残して一団
は去つて行つた。

割り切れない思いは残つたが、
言うべきことは言つた(まだ足り
なかつたかも知れないが)。私は
車に乗り込み、Kさんと猟友の待
つ放犬場所に戻ることにした。2
人には、このような場面は見せた
くなかつた。今は猪狩りの楽しさ
だけを教えたかつたのである。

そう考えると、今日私がとつた
グループとの話し合い(口論、口
ゲンカと言つたほうが正しいだろ
う)は、間違つていたかも知れな
いと思えてきた。「富士雄号」が
連れ去られたと思つたとき、迷わ
ず警察に「盗難届け」を出し、そ
のうえでグループと話し合えば、
彼らの猟道に反する不誠実な言動
が証明されたような気もするのだ
が……

鳥獣魚剥製 剥製材料

(有) 上野剥製所

東京都千代田区外神田5-4-1
電話 03(3833-1) 八〇九八代